

資料1 消化器系（消化管：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肛門 消化腺：唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓）

	胃	小腸	膵臓	肝臓	胆嚢	大腸
キーワード	食物の一時保管、消化	消化、吸収	膵液、ホルモン分泌	貯蔵、解毒	胆汁貯蔵、脂質代謝	便を作る
産生物質 または 分泌物質	【分泌物質】 ・胃酸（強酸性）：胃の内容物の腐敗や発酵を防ぐ ・ペプシノーゲン ・粘液：ビタミンB12の吸収にも関わる		【分泌物質】 ・膵液（弱アルカリ性） ①トリプシノーゲン ②アミラーゼ ③リパーゼ ・ホルモン ①インスリン ②グルカゴン	【産生物質】 ・コレステロール：胆汁酸やホルモンの原料 ・フィブリノゲン：血液凝固因子 ・アルブミン：血漿タンパクのうち約60%を占め、血中の薬物と結合する ・必須アミノ酸以外のアミノ酸 ・胆汁		【産生物質】 ・ビタミンK：血液凝固や骨へのCa定着に必要なビタミンで、腸内細菌によって産生される
機能	・胃適応性弛緩 ・胃酸によりペプシノーゲンはペプシンとなる ・たんぱく質がペプシンによって半消化された状態をペプトンと呼ぶ	・栄養素は門脈から肝臓へ ・十二指腸に膵管と胆管の開口部があり膵液と胆汁を腸管内に送り込む ・腸液によりトリプシノーゲンがトリプシンになる ・トリプシン：タンパク質（ペプトン）をさらに消化	・糖、タンパク、脂質全ての消化酵素分泌	・糖をグリコーゲンにして貯蔵 ・脂溶性、水溶性ビタミンの貯蔵 ・解毒 ①アルコール→アセトアルデヒド→酢酸 ②アンモニア→尿素	・肝臓で作られた胆汁の貯蔵 ・古くなった赤血球、コレステロールの排出	・水分や電解質（Na,K,リン酸など）の吸収 ・食物繊維（難消化性多糖類など）の発酵分解
特徴	・胃での食物の滞留時間 ①炭水化物：短い ②脂肪：長い	・全長6-7m ・十二指腸、空腸、回腸からなる（空腸：回腸＝概ね4：6だが、明確な境目はない） ・十二指腸は、胃から連なる約25cmのC字型に彎曲した部分。 ・絨毛に覆われている		・横隔膜の下にある ・腹腔内で最大の臓器	・胆汁の成分 ①胆汁酸：脂質の消化と脂溶性ビタミンの吸収 ②ビリルビン：ヘモグロビン分解後の代謝物	・上行結腸→横行結腸→下行結腸→S状結腸→直腸 ・糞便はS状結腸にたまっており、直腸へと送られると便意を感じる。 ・糞便の組成 ①水がほとんど ②腸壁上皮細胞：15-20% ③腸内細菌の死骸：10-15% ④食物の残滓：5%